



この例会は劇団協議会主催の「アートキャラバン事業」
として文化庁の支援を受け実施されます。

No.272 富士山演劇鑑賞会 会報



11月22日 (月) ロゼシアター
開場 18:00 開演 18:30 大ホール

◇ 他団体の例会日程 ◇

静岡・清水 11月17日(水) 18:30
(マリナート) 11月18日(木) 13:00

沼津・伊豆 12月1日(水) 13:30
(三島市民文化会館)

他団体での観劇を希望される方は、事務局までご連絡ください。

トム・プロジェクトプロデュース

萩咲く頃に

上演時間
2 時間
休憩なし

父は息子に期待した。

息子はその期待に応えられず、引きこもった。

妹はそんな兄を許すことが出来なかった。

しかし母だけは、どんな時も見守り続けた。

そして2011年3月11日。

あの日を境に家族はバラバラになった……

「父さん、頑張ったんだよ、僕は」

東北のとある町で暮らす澤田家。

これは、家族の絆を紡ぐ物語です



【作・演出】ふたくちつよし

【出演】音無美紀子 藤澤志帆 森川由樹
西尾友樹 大和田獏

あの日を境にバラバラになった家族 もつれた糸をほどいてー

【あらすじ】

珍しく三連休となったある良く晴れた秋の日。

澤田家ではこの家の主婦咲子が朝早くから仏壇の花の活け替えや家の掃除などに忙しい。

長女千秋はこの連休を利用して東京から帰ってきていた。

昨夜は、娘の久しぶりの帰郷を喜ぶ父芳雄とともに親子三人夜遅くまで、楽しい団欒の一時を過ごしたようだ。

しかし、千秋にはどうも気にかかることがあった。

千秋に早く帰って来いと迫る芳雄を、いつもはたしなめてくれる咲子が、何故か正月でもないこの時期に帰って来るよう電話してきたのだ。

芳雄が寺へ出かけて不在なことを確かめた千秋は、そのことを咲子に質す。

すると...ある事をきっかけに家を飛び出して行った千秋の兄正樹が、実は今日、何年かぶりに帰って来ることになっているというのだ。

そして.....



音無美紀子

藤澤志帆

森川由樹

西尾友樹

大和田獏



ふたくちつよし 〈作・演出〉プロフィール

1997年、劇団「風力写真機」を設立。市井に生きる人々をユーモアとパースを交えてさりげなく描くその作風と演出は、近年とみに高く評価されている。主な作品「風薫る日に」(劇団俳優座)、「お茶をすすって」「こんにゃくの花」「切り子たちの秋」(劇団青年座)、「霞晴れたら」(劇団民藝)、トム・プロジェクト「ダモイ〜収容所から来た遺書〜」「夕空晴れて」「かもめ来るころ」「百枚めの写真」等。また「切り子たちの秋」は2012年の鶴屋南北戯曲賞の最終候補にもなった。

『牡丹燈籠』感想

● 円朝役の声がくぐもっていて、早口で話すときは聞こえにくかった。後ろの方はほとんど聞こえなかったのではないかと。牡丹燈籠の話ができた過程がわかってよかった。

● ビク!!ドキドキ、ハラハラ 怪談の音楽、楽しく観劇しました。

● 一番怖いのはヒトの欲なんです。欲を満たすためには人をも殺す。愛するがゆえにとりついて殺してしまうそれ程に深い。でも、恐い愛。愛する人の幸せを願える人になりたいと思った作品でもありました。

● 大ホールになってから全然聞こえませんが、セリフが聞き取れないのが辛く、疲れてしまいました。● お金を手に入れた二人が、荒物屋の大店に収まり成功したかに見えるが、人の心の思わぬ変節、人生思うようにいかない。

● 前の席で役者さんの表情もよく見えました。伴蔵さん、お峰さん夫婦が幽霊の手助けをするかどうかの場面は、緊迫感がありました。見ごたえのあるお芝居でした。

● セリフがやや聞き取れなかったが、役者さんの力量はすごいと思いました。舞台装置が素晴らしく舞台転換もみごとですが、お露さんの幽霊は綺麗でした。恋する人に焦がれてというのがいじらしかったです。

● 内容が暗すぎる。もう少しメリハリが必要。聞き取りにくい会話があった。何十年も観続けてきた例会の中であまり感動できず残念な舞台だった。

● 場面転換が面白くて、次どうなるのかしらと見入ってしまいました。演出が素晴らしかったです。

● 開演前から、舞台上の大きな燈籠オブジェにワクワクして目が釘付け。すぐに登場したお露、お米の着物姿のなんと妖艶なこと。妖

艶な幽霊なんて今まで見たことが無かった。「新三郎に惚れて焦

がれ死に」というロマンティックな設定で、新三郎にお露の骸骨を抱きついても、怖さよりも彼女の哀切さが伝わってきた。伴蔵とお峰、お国と源次郎という二組の男女の物欲の深さと、相次ぐ死という展開から、昔も今も変わらぬ人間の業の深さを思い知らされた。お露の純愛死と、四人の男女のグロテスクな死は見事な対比となって深く心に残った。文学座の皆さま、ありがとう。

● 歌舞伎で何回か観ました。また、趣が変わって良かったと思います。人間の欲望は「きり」がありません。浅ましさと同時に憐れみを感じます。舞台装置が斬新でした。

● あらすじを読むと人物関係とらえにくく話についていけないか?とか、人物の名前も難しそうで混乱しないか心配でしたが杞憂に終わりました。とにかく観て

いて面白かったです。

運営担当の声感想

● 『怪談牡丹燈籠』という演目名を知っていても、実際どういう話なのかを初めて知りました。「幽霊」はとても美しく、独特の舞台セツトが雰囲気を出して物語に浸ることができました。色や金といった自分の欲望にかられ人を殺し新たな人生を試みても、結局は罪の意識から逃れられないのです。残暑がくり返した日の夜に涼を感じた作品でした。

(ソレイユ2)

● 最初のうち少しセリフが聞きづらかったのですが、見入る内に分かるようになりました。音楽、効果音等素晴らしく、因果応報がテーマです。欲による最後面白く観ました。あらすじを読んでいないと、人間関係が複雑で分かりにくいかもれません。

(フレンズ)

● 久し振りの文学座なので楽しみ

に待っていた。期待通り見ごたえのあるお芝居で満足した。早変わりも見事だった。ただ、文学座にしては、珍しく台詞をかんだりなどこなれていないと感じた。最後の円朝の場面も何を言いたいのがよく伝わらなかった。作品のパンフがあればいいと思った。

(富士子ども劇場)

怪談話には抵抗がありました。が、舞台セットや照明が美しく、又語りを大切にしたり芝居という劇団の姿勢に期待しました。あらずじは頭に入れていました。幕が開いて夜の暗い場面です。人の動きがよくわかりませんでした。お露と乳母の早変わり、よく分かりませんでした。折角の語りも台詞がよく聞き取れず、後方の席というところもあって仕方ないと思います。がとても残念でした。

(スカイブルー)

コロナ緊急事態宣言中、関係者の皆さんのお力添えで観劇することができ本当に嬉しく思います。

た。昨年度から入会させていただき、今回初めて運営担当に参加させていただきました。当日は、受付でスタンプ押しをしました。今回のお芝居は声が割れて聞きづらい箇所がありとても残念な所がありました。内容的にはとてもいいお芝居でした。

(水の樹)

『怪談 牡丹燈籠』の担当になったものの、題名を聞いてイメージするのは、お露と新三郎の悲恋を描いた「お札はがし」の部分だけ。

「牡丹燈籠ってどんな話？」と聞かれると結局どんな話だったか??担当サークルの皆さんとの第一回目の集まりの時にもその話題が出たが、お芝居を観ていない皆さんは、私と同じような感じだった。家に帰ってYoutubeで調べてみると原作者の初代三遊亭圓朝は明治時代の方なので動画はない。そこで六代目三遊亭圓朝の「牡丹燈籠」を聞いてみた。私が知っている「お札はがし」の

段だけでなく、いくつにも分かれていて登場人物も大勢いる。とても一度に聞ききれずに、何度かに分けて聞いた。大勢の登場人物がいろいろに関係していてかなり面白かった。そして、こんなに長くて複雑な話をどのようにお芝居にするのだろうか楽しみになった。当日、「なるほど、ここはこんな感じにしたんだな」などと感心しながらお芝居を見ていた。ただ、原作のあらずじを知らない方には分かりにくいのではないかと思うこともあった。担当サークルにならなかつたら、あらかじめ落語を聞くことも無かつたかもしれない。当日お芝居の見るだけでも楽しいが、予備知識があるとさらに楽しめると思った。

(おとめぎ)

運営サークル活動に参加して

コロナ禍の中で誘いの声を掛けにくい状況だった。状況が改善されたら子ども劇場の仲間たちを中心に声掛けしたいと思っています。

る。当日は搬入の仕事をした。自分の運んだ大道具が舞台でどうかされたのか興味深かった。

(富士子ども劇場)

お誘いしなかった方がいたので、すが体調を崩しているとのこと。以前入会していた方にも連絡しなかったのですがなかなか機会がなく。座席決めのお手伝いのみ。当日はいつもアンケート回収でしたが、アートキャラバンのアンケートはかなりありました。

(フレンズ)

運営サークル会に全く参加せず申し訳なく思っています。「一人で楽しめるもの」と思って入会したので誰かを誘うことの難しさを痛感しています。特にこのコロナ禍ではなおさらで、「昼間観られれば。」と言う声が多く、昼夜の二回公演が懐かしく、だからこそ仲間を増やさなければという矛盾にぶつかります。一刻も早いコロナの終息を願うばかりです。

(ソレイユ2)

「幽霊が出てくるから怖そう」「怖いから観たくない」という声がかなりありました。お芝居の内容、魅力を一生懸命アピールし期待が持てるようにしていこうと運営サークル会がスタートしました。

第一回目の運営サークル会前に、運営委員候補者を含め事前打ち合わせ会を持ち、運営の進め方、役割り等を説明し2名が運営リーダーを快く引き受けてくれました。運営サークル会の司会進行をお願いし、好調なスタートを切るかのようでした。

そこへ蔓延防止、緊急事態宣言の発令があり、サークル集会そのものを見直さなければならなくなりました。そこで二回目以降は、1時30分から3時からの2部制に分けて一時間程度で速やかに終わるように計画を立て直しました。また、夜の部は中止することになりました。

コロナ禍、「外出を控えステイホームの現状では人をお誘いできない」「代表者が運営サークル会に出席するのが精いっぱい」との意見が多数でした。しかし、作業等は分担して責任をもって集中して取り組み、自分たちの担当している例会であるという意

識が感じられ、出席できない旨をFAXで文につづり送ってくるサークルもあり、どのサークルも「この会は私たちが運営している」という意識をもって参加していました。

また、会館の方からは緊急事態宣言下、夜8時以降は使用不可、開演を早めるように言われ開演時間を30分早めることで、開演にこぎつけました。そのことの周知・広報にも十分な配慮をしました。

当日は、文学座の皆さんの手際の良さを実感した搬入・搬出でした。しかし、ロゼ大ホールの構造にもよる反響は音楽的には良いけれど、音が広がり「聞こえ」が悪いという欠点。「聞こえなかった」「何を言っているのか分かりにくかった」という声が多く聞かれました。時代物であるため分かりにくい言葉もあったかと思えます。まとめの会でもその話でもちきりでした。会場は50%の使用制限があるためやむなく大ホールを使用しています。あと一回大ホールですが、10月に入りコロナワクチンの接種下、鎮静化に向かいつつあります。

このまま良い方向に向かうこと

をお願いしつつ、中ホール開催を楽しみにしているという、担当サークル一同の感想でした。



開演前 劇団と運営担当サークルとの対面式

サークル数	71
サークル増	0
サークル減	2
±	-2
会員総数	423
入会	5(1.2%)
退会	15(3.4%)
±	-10
例会参加率	90.10%

運営担当サークル	じゃがいも	杏	富士子ども劇場	やまたのおろち	カトレアの会
ソレイユ	水の樹	フレンズ	BOKE	青い鳥	レモンのいれもん
KO	カナリア	スカイブルー	富士	招き猫	おとめざ

運営担当サークルの皆さんお疲れさまでした

次例会のおしらせ

No.273 例会

2022年

1月23日(日)

ロゼシアター中ホール

開場 18:00

開演 18:30

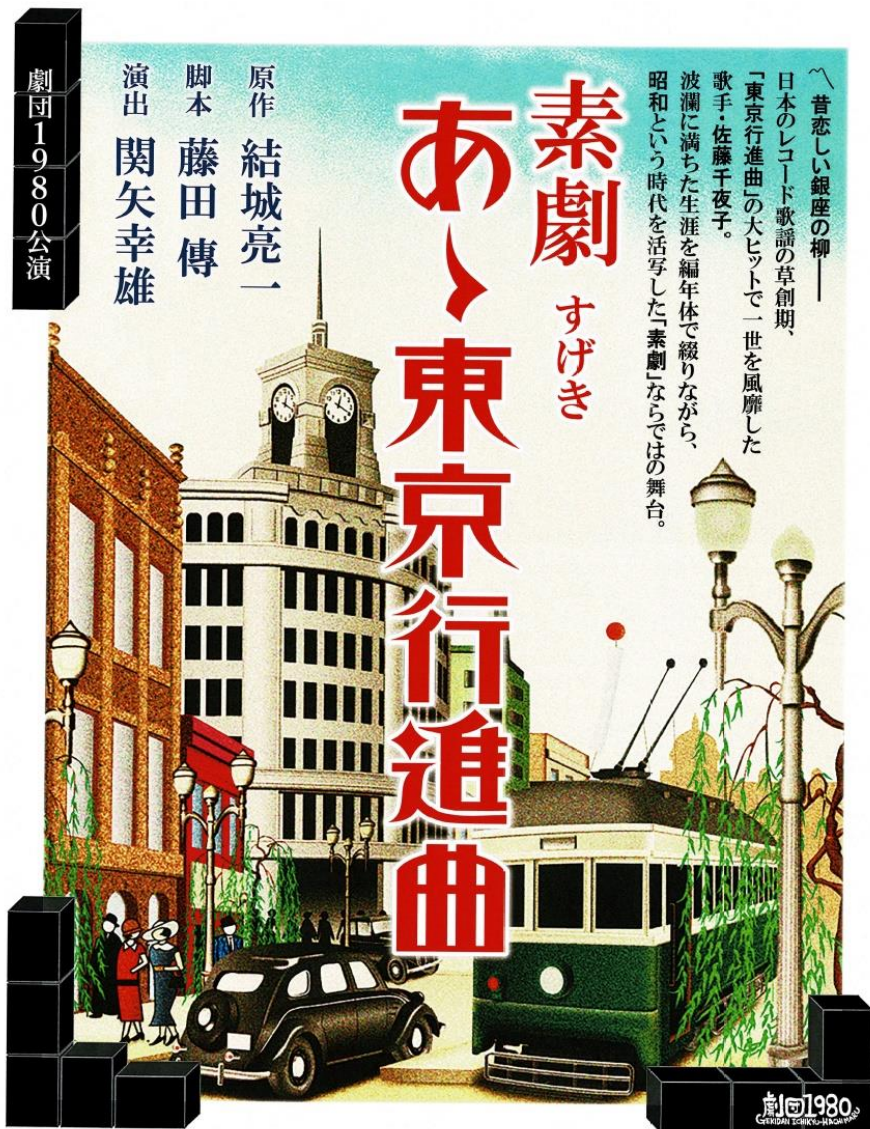
劇団1980

素劇 あゝ東京行進曲

原作 結城亮一
脚本 藤田 傳
演出 関矢幸雄

柴田義之、山本隆世、
上野裕子、光木麻美、
他

上演時間：2時間（休憩なし）



日本のレコード歌謡の草創期ともいべき昭和の初頭——日本のレコード歌手第一号として輝かしい脚光を浴び、「波浮の港」「東京行進曲」「紅屋の娘」など数々の大ヒットで一世を風靡した歌姫・佐藤千夜子。彼女の一代記ともいべき結城亮一の小説『あゝ 東京行進曲』を藤田 傳が脚色。明治から大正、そして昭和という激動の時代を駆け抜けた一人の女性の生涯を編年体で綴りながら、急激に移ろっていたニッポンを描き出していきます。

演出は関矢幸雄。“素劇（すげき）”は、関矢幸雄が提唱した独自の表現様式です。日本の伝統的な表現様式「見立て」をヒントに、素朴・単純にして、より深い意図をあらわす表現の追究の中から生みだされたのが“素劇”なのです。この作品では、21個の黒箱と数本の白いロープを俳優たち自身が操りながら、時に肉体そのものも舞台装置にしながら次々と場面を構築していきます。激動の昭和の移ろいは、シンプルで自由自在な“素劇”によって表現され、観客の想像力を喚起しながら、黒一色の舞台空間に色鮮やかな場面を創り出します。

また、全編にちりばめられた懐かしの流行歌も、俳優たちのオールアカペラ、口三味線。カラオケなどなかった頃、日本人はどんな思いを歌声に込めたのでしょうか。千夜子の生きざまとともに、同時代を生きた人々の心の“息吹”を呼び起こしていきます。

重要なお知らせ

- ・会費納入12月会費 11月25日(木)～12月3日(金)
1月会費 12月16日(木)～12月23日(木)
- ・退会締切 11月30日(火)
- ・シール配券
『あゝ東京行進曲』 12月16日(木)～12月23日(木)
- ※ 次回例会『あゝ東京行進曲』より中ホールでの実施になります。

『あゝ東京行進曲』担当サークル

エミの会・だぼはぜ・アンジュ・吉原工業・レモン・Young Moon
かりがね・さくらんぼ・Cherry Hill・茶色の小びん・S-1・まゆみ
ルンルン・日々是好日・オレンジ会・カメラア

- ★ 例会翌日は、事務局は休みです。
- ★ 毎月の会費納入は、基本的には 月末の25日～月初め5日 です。
※例会等の関係で変更になることがあります。
- ★ 例会運営サークルの集いの日程は、担当のサークルリーダーにお知らせします。
- ★ 退会する場合は、退会締切り日までに手帳裏表紙の退会届に必要事項を記入の上、事務局へ提出して下さい。
※電話やFAX、郵送での退会受付はできません。
※入会1年未満の方と退会締切り日後の退会は認められません。ご了承ください。

【事務局からのお願い】

不要になったハガキや切手がございましたら、例会会場、または、事務局にお持ちいただけると大変助かります。それぞれ未使用であればどんなに古いものでも結構です。

富士山演劇鑑賞会

富士市元町12-26 田中ビル101号
TEL 0545-63-9201 FAX 0545-62-1687
Eメール fj_simingekijou@ab.thn.ne.jp
http://web.thn.jp/fj_simingekijou/
ホームページ [富士山演劇鑑賞会] で **検索**

観劇のマナーを守って 楽しく「かんげき」しましょう

- ・携帯電話の電源は切りましょう
- ・開幕前は静かに待ちましょう
- ・お話は上演終了後にゆっくりと
- ・客席での飲食はできません